

	第 1 2 4 回 横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録
議題	1 横浜市景観ビジョンの改定について（審議） 2 山手地区景観推進地区及び都市景観協議地区の策定について（報告） 3 各部会の開催状況について（報告） 4 都市デザインの広報について（報告） 5 歩行者系案内誘導サインの整備について（報告） 6 現市庁舎街区等活用事業の進捗について（報告） 7 その他
日時	平成 3 0 年 3 月 7 日（水） 9：45～11：45
開催場所	横浜市開港記念会館 6 号室
出席委員（敬称略）	西村幸夫（会長）、大西晴之、岡部祥司、加藤仁美、加茂紀和子、国吉直行、真田純子、塩田久美子、鈴木智恵子、関和明、矢澤夏子
欠席委員（敬称略）	中津秀之、野原卓
出席した幹事・書記	幹事：村本一章（政策局長代理 政策課担当係長）、綱河功（環境創造局長代理 政策課みどり政策調整担当課長）、中川理夫（建築局長代理 企画部長）、松尾寛（道路局長代理 計画調整部長）、酒井博之（港湾局長代理 賑わい振興課担当課長）、薬師寺えり子（都市整備局長） 書記：小池政則（都市整備局企画部長）、嶋田稔（都市整備局地域まちづくり部長） 梶山祐実（都市整備局都市デザイン室長）、鵜田傑（都市整備局景観調整課長）
説明者	議題 1 山田渚（都市整備局都市デザイン室 担当係長） 議題 2：村上実（都市整備局都心再生部都心再生課長） 議題 3：鵜田傑（都市整備局景観調整課長） 議題 4：野田恒雄（都市整備局都市デザイン専門職職員） 議題 5：小田嶋鉄朗（都市整備局都市デザイン室担当係長） 議題 6：黒田崇（都市整備局都心再生課都心再生担当課長）
開催形態	公開（傍聴者 1 名、記者 1 名）
決定事項	議題 1：本日の意見を踏まえ、引き続き検討を進めること。
議 事	<p>（議事の一部非公開について）</p> <p>○西村会長 まず会議の公開について事務局から説明をお願いしたいと思います。</p> <p>○梶山書記 本日、議題 1 から 4 につきましては、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条に基づき、公開とします。議題 5 につきましては、同条例 7 条 2 項 3 号の「権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがある」に、議題 6 につきましては同条例 7 条 2 項 6 号の「市の事業等の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの」に該当することから、同 31 条 3 項に基づき非公開としたいと思います。</p> <p>○西村会長 ありがとうございます。今、事務局から非公開の提案がありました議題 5 と議題 6 については横浜市都市美対策審議会運営要綱第 11 条に基づき非公開ということにしたいと思います。では、議題 5 と議題 6 を、議題 7（その他）の後に行うということにしたいと思います。</p> <p>（1） 横浜市景観ビジョンの改定について（審議）</p> <p>○西村会長 議題（1）「横浜市景観ビジョンの改定について」、市から説明をお願いします。</p> <p>議題 1 について、市から説明を行った。</p> <p>○西村会長 昨年の時点では、市民向けに景観を意識してもらうような教育的なプログラムというところに特色があったわけです。一方で横浜市の分野別の計画の指針に当たるものなので、行政がさまざまな形で実</p>

際の開発案件と向かったときに、しっかり指導できるようなものでなければいけないのではないか、また、今なぜ改定しないといけないのか、というところをきちんと書くべきではないかという意見がありました。それを受けとめて現状の形になっているわけです。今まで市民向けだったところに事業者向けの部分、具体的に行政の現場で使えるような部分も加えられているものですから、いろいろな側面があると。今日は特に改定された部分の中で基本的に行政として、開発に向かうときにきちんとした根拠となれるような部分について、主に書き足されているということになっています。

まだ改定作業の真っ最中なので全体がお示しできていないわけなのですが、それは7月にお示しすることになっております。ここまでで全体の方向性としての議論をお願いしたいということです。補足で梶山書記から何かあれば。

○梶山書記 今日野原委員がご欠席ということで、野原委員からのご意見を先にご紹介させていただきたいと思います。

「全体を通じて景観づくりを考える上で、基盤部分の説明や考え方が少し抜けているように思われます」ということです。「今後の審議事項と少しずれることになるかもしれませんが、今回の新第2章の4において、地域の景観を考えるプロセスが示されておりますが、その内容を含めて横浜の景観の基盤としての見方が第3章と示されるほうがよいのではないかと思います」。今回、第3章についてはお示ししていないので、こちらの卓上ファイルで、今でいう第2章のところを見ていただければと思います。「横浜は、あるいはそれぞれの地域は、地形・地勢・歴史・文脈・空間・活動としてどのような場所なのか、それを地域の景観として生かすかどうかは市民や景観づくりが主体として考えるとしても、その基盤がどのようになっているかをガイドする必要があるのではないかと思います。これも主体が自分で見つけるということかもしれませんが、見方はガイドしたほうがよいのではないかと思います。実際に景観づくりをする際は、その意味を飛び越えて安易なツールが用いられやすくなる可能性があるということで、例えば実践編、ヒント集の事例に“みなまきひろば”が載っておりますが、横浜郊外のどのような場所であるのか。相鉄いずみ野線の開発当初から駅前に民間広場と商業スペースがあったこと、周辺の都市計画的状況など、さまざまな背景がある。こうしたことは普段は気づきにくいので、そういうことが気づくようなヒントを載せたほうがよいのではないか」というご意見でした。

○西村会長 もう少し背景になるようなことをきちんと書き込むべきではないかということです。もう一つ、実践ガイドのほうも、前は身近な景観づくりのヒント集と後半だけだったのですが、もう少し大規模なものについて、創造的協議をするときに使えるものを前半に組み込んだということです。それから、後ろの身近な景観づくりについても景観だけのまちづくりをやるということは稀なので、もう少しまちづくり全体の中でいろいろやるときに景観をどう考えたらいいのかという形で若干組みかえていただいているということになっています。

○国吉委員 全体に創造的という言葉、創造的協議という言葉をよく使っているのですが、それは協議のところだけに使って、ほかのところあまり使わないほうが混乱なくいいのかなという感じがします。それは後ほど言いたいと思います。

それから、25ページのところで「3. 行政の役割」というのが書いてあるのですが、その下のほうに4行あって「行政自らが行う事業において良好な景観づくりを先導するとともに」と書いてあります。この文章の最初のところの「良好な景観づくりを先導するとともに」というのは、みずから優れた景観をつくりなさいと言っているという解釈でいいのでしょうか。これは先導と言っているのかどうか、何かおこがましくなかなと思います。その言葉は、ここで「ともに」と言ってしまうと、どこがメインなのかあまりわからなくなるので、まず先導するのだったら「先導する」と言い切ったほうがいいのかかなと思います。そして「さらに行政は」ということで、後は協議の窓口としての行政で、前はやはり自分がみずからやる事業者ですから、事業者としての行政と誘導する指導者はセクションが違って同じところをやっているわけではないので、ここは一旦切って、「また」という感じでやったほうがいいのかかなと思います。

そのときに、「規制・誘導による景観づくりだけでなく」というのと「創造的な協議による景観づくりをさらに」と書いてあるのですが、この「規制・誘導による景観づくりだけでなく」というのは何かここだけ違和感があります。ここは「創造的な協議を積極的に進める」ということで、「規制・誘導による」というほうが目立ってしまうのです。書くのだったら、「画一的な協議だけでなく」くらいの感じにしたほうがいいのかかなという感じです。その辺の表現の仕方は、「創造的な協議」にウエートがかかるように持っていたほうがいいのかかなという感じがして、その辺をちょっと工夫が必要かなと思います。

そしてもう一つなのですが、78ページで、1で「創造的な景観づくりの実録集」というのと、下に

「身近な景観づくりのヒント集」と分けてあります。これが先ほど西村会長がお話ししたような大規模な事業、総合的な取り組みをやっているものと身近なというふうに、この1と2のタイトルではわからないと思います。しかも、これはヒント集で上は実録集ですから、もうちょっと何か表現の仕方があるかなと思います。ここでまた創造的な景観づくりという、協議のことを言っているのか、それとは別にまたあるのかというのがわかりません。この場合は、創造的な協議も含めて、都心の創造的な調整とか事業の調整とかを含めた重要な事業のことを言っているのではないかなと思うのですが、その辺のことがわかるような言い回しをしたほうが良いと思います。また、ヒント集と実録集は同列のものなのかわかりません。その辺の言葉の整理してもらったほうが良いかなという感じがいたしました。

○西村会長 ありがとうございます。特に創造的協議という言葉を大切に使ってほしいということでございます。

○加藤委員 前より随分よくなったなと思っております。3つご意見を申し上げたいと思います。

一つは、4ページ目の図なのですが、これは非常に重要で、市民の方にもわかりやすく示していたきたいところです。要するに私が今まで非常に気になっていたのは、都心部だけですごく頑張っていたのを郊外でもやっていくのだということが、この図だと非常にわかりやすいと思ったのです。景観計画は市全体の話として線で補足するなどわかりやすくなっています。ただ、その線の引っ張り方が、3地区のところがちよっとずれていたりしますので、この図をもう少し大きくしてわかりやすく整理していただくといいかなと思いました。この辺の話が文章を読むときちゃんと整理されているので、わかりやすくなったかなと思うのが一点、意見です。

それからもう一つは、景観づくりの系譜をきちんと書いていただいたのが、私は非常に感銘を受けました。やはりこれがあるからこそ、今こうしていくのだという流れが市民にとってもわかりやすくなったかなと思っています。その中で、9ページ目の上段のほうなのですが、私が市の方にヒアリングをしましたときに、都心部の将来の景観像はすごくわかりやすいと。だから都市デザイン室が頑張れるのだという話があったのですが、郊外部ではそれぞれ特性があって、どういう方向に行けばいいかわからない。そういう中で考えたのが地域まちづくりだと伺ったことがあります。ですから、地域まちづくり課がやってきたような施策とかを、もう少し②の最後のところにキーワードとして入れてしまってもいいのではないかなと思いました。ただ、よく見ると、後ろのほうの実録集のところには相当、まち普請の話とかいろいろ出ていますので、ここを読めばわかるのですけれども、系譜の中にきちんとそれを入れていただくのがよろしいかなと思いました。これが2つ目です。

それから3つ目でございますけれども、最後のページの110ページなのですが、これはまちづくりを進めていく中で景観をこうしたほうが良いというような話になったときに、このような施策・手法がありますよというのが羅列式になっていますので、多分これは時間切れだったのかなと思いますけれども、これもやはり少し整理していただいて、例えばルールだったらこういうものがあります、建築協定、地区計画などがありますよとか、ちょっと整理して書いていただいたほうが使いやすく、活用に向けてわかりやすくなるかなと思いました。以上3点です。

○真田委員 景観ビジョンの実践ガイドのほうなのですが、事業者向けのものと市民向けのものが分けられて、非常にわかりやすくなったなと思います。ただ、今はまだ調整中と書いてあるのですが、99ページと100ページのところで、きっかけとして困ったことがあるとかという話で、Bのところでも「もやもやしていたものを、まずは地域の人みんなで集まって話し合ってみましょう」となっています。これは多分、課題解決というか、そういうものを想定していると思うのですが、景観の視点のところでは「地域の魅力や個性を探す」というふうに、ちょっと課題解決ではなくて、何かいい将来像の話になっていたりします。

全体を通してその辺がぐらついている部分があるというのと、あと将来像というのが何となく景観に寄り過ぎていくような気がします。どういうまちにしようかというのが、どういうまちというふうに少し客観的な視点で市民向けに言うのではなくて、どういう暮らしがしたいか。例えば広場が身近にあって歩いて広場に行けるとか、通学のときに常に緑のある道を通って行けるとか、何かそういう生活者の視点でどういう生活がしたいかということから、そのためにどういう空間が必要かというステップを踏むほうが市民向けにはいいのではないかなと思いました。

○西村会長 ありがとうございます。生活者の視点で書いてくれと。

○説明者(山田) まだこの辺についても調整中ということで、なかなかきちんと整理し切れていませんが、1つ景観ビジョンでお伝えしたいことがあるとすると、実は103ページのコラムのとおり、小学校へキーワ

ードを使ったワークショップの出前授業で行きました。そのとき、総合学習の時間に地域の課題解決というテーマでやっていたそうなのですが、課題解決だとなかなか行き詰まってしまうところを、そうではなくて、では地域の魅力を探しましょうという切りかえで出前授業をしたところ、それで結構いいアイデアが生まれるようなブレイクスルーがあったこともあります。そういうことを大事にして記載したいと考えております。

○西村会長 それをもうちょっと一歩進めると、生活のイメージみたいなものから議論をすると、もっといろいろ広がるかもしれませんというご意見ですね。

○加茂委員 この前8月に伺ったときに、これは誰に向けてのどういう本なのですかというようなことを質問させていただいたような気もするのですが、それに対して今回は、景観づくりと課題という16ページの最後のところに「市民の誇りや愛着の醸成に向けてさまざまな資源を生かし、協働して」という一文があります。まさにこのビジョンというのは、やはり市民が愛着を持って自分たちのまちを何とかしたいというようなところでひも解いていったときに、どういうことが載っているのかなということを市民の人たちが見るという立場として見ていくと、横浜市の行政の姿勢として街並み、中心部の方でいろいろなことが行われていると。

それで最後のところにヒント集というのが出てきます。これはヒントというか、ある一つの実践としてあるのですが、何か問題提起してやっていこうとしたときに、どういう経緯でどうなっていたのかということを市民としては一番知りたいのではないかなという気がします。そのために、一番後ろのほうの「景観づくりにつながるまちづくりの手法や制度」というようなところで、そこに行けば何かいけるのかもしれない。これは多分この1冊の本だけでは難しいのかもしれませんが、例えばそれが細かく行けるようなルートをつくっていただくと、ネットやウェブのサイトなど、そういうところに飛んでいけば何かつながっていくようなことになるのかなという印象がありました。

逆に、細かくワークショップの手法というようなことでここに載せていただいているのですが、これも逆に言うと唐突な感じがします。ここはある一つの理念というか一つの道筋を示して、そこがもうちょっと枝分かれになって、そういうワークショップの手法もあるよとか、まち普請事業みたいなこともあるよとか、こうやっていろいろな人がやっていったのだよというようなことをつなげていけるような構成もあるのかなという印象を受けました。

○西村会長 もう少しステップを明確にして、ここだけで書き切れないものは別の媒体に紹介するということもあり得るのではないかなということですよ。

お伺いしていると、全体としてはこういう方向でいいのではないかと。ただ、もう少しいろいろ工夫や、もう少し一歩進めるようなアイデアをたくさんいただいたように思いますので、この方向で次の政策検討部会でも議論をさせていただき、次の本会でもう一回出てきます。そこでもう一回議論をする機会があります。そこで概ね良ければ、その後に市民意見募集に行きます。できれば来年度中に改定したいというのが事務局の予定です。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、この件に関しては、今日いただいたご意見の方向でさらなる努力をしていただきたいと思います。

（２）山手地区景観推進地区及び都市景観協議地区の策定について（報告）

・山手地区景観推進地区及び都市景観協議地区の策定について、市から説明を行った。（資料２）

○西村会長 山手地区の景観風致保全要綱は、恐らく日本の景観のコントロールの先駆的な要綱です。これより古いものの大半は、歴史的な地区の保全ということではあったのですが、眺望や景観基準点まで含めて指導をするということが行われた日本の最初の事例で、教科書に載るようなものだと思います。今まで要綱でよくやれてきたなど。むしろ住民の方々がそれだけすごく意識が高かったからだだと思います。要綱では、行政手続法の施行以降に難しくなって、実際の法的な権限を持った制度に移行しようという話があります。

○国吉委員 現状に合わせて、条例や景観法に基づいた指導も行っていきたいということで、非常にいいことではないかと思っています。新山下地区についてです。元町地区は、準特定地区ということになっていますが、

港側の新山下地区については今回触れていないのですけれども、多分、住民説明会とかで聞かれると思います。そのときにどういう対応をするのか見通しがあれば。また、現在の用途地域だけで守られると考えてらっしゃるのか、その辺のところをご説明いただけると。

○説明者（井上係長） これまで住民の皆様との対話では、新山下では住宅やマンションが多くございまして、その町内会にご説明を行っています。また、港湾エリアでは、倉庫・物流業の皆様を中心にした再開発協議会が立ち上がっておりますが、そちらのほうでは議論がまだ成熟していないというところがございます。新山下については、眺望の観点から全域の方針の中で、建物の高さの制限を高度地区と合わせて、許可によって高さ制限が抜かれないような形で全域方針として考えております。準特定地区で定めるところでは、眺望以外の街並みとしての基準を定めることを考えているのですが、今、新山下の中ではそういうルールがない状況でございます。地元の団体さんとはしっかり調整を行ってきているという経緯でございます。

○関委員 ご説明の趣旨や内容は理解しております。この制度移行は随分前から必要である、不可欠であるということも伺ってまして、今動き出したということで、いいと思います。1点目に、22枚目のスライドで、今の国吉委員の質問ともちょっと関連するのですけれども、山手町特定地区と元町・石川町準特定地区に分かれています。この2つの区分の分け方は基本的にわかるのですけれども、今回の制度移行でどのように整理されたかを確認したいと思います。

次に、今までの区分で、10枚目のスライドでは既に地区計画が何カ所か黄色のところがあります。今まで地区計画として制度的に担保されていたものがどう変化するのか。その2点をお伺いしたいと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

○説明者（村上課長） 元町・石川町準特定地区については、今お話しいただきましたように、地区計画等でしっかりと、かなりルールも決まっております、地元の組織もかなりしっかりして、セットバックも含めてこれまでもいろいろな協議を重ねています。協議も割とスムーズにできたというところもございます。そういうことで、地区計画の内容もうまくあわせ持ってやりながら、こちらの制度のほうでも齟齬がないように、余計な基準をあえてかぶせないようにということです。

一方で山手町のほうは、行政指導では限界が来ているということで、元町のように地区計画がかかっているエリアも2カ所あるのですが、地区計画がかかっていないところを中心にいろいろな話がございますので、今回のしっかりした制度移行ということで、準特定ではなく特定ということで区別化を図って、しっかりした制度をつくっていききたいということでございます。

○関委員 この場所も歴史的な経緯からすると、丘の上が居住地域で、元町の崖の下が商業というか、生活のためのいろいろなものをサポートしているという位置づけです。その関連もありますので、特に丘の上のほうの新しく条例でいくというところでの内容も含めて、しっかりと取り組んでいただければと思います。

○説明者（村上課長） 承知しました。

○国吉委員 先ほどの説明の補足として質問をしますと、スライドのこのところが元町・石川町準特定地区というところで、この中が山手町特定地区なのです。山手からの景観を守るために、元町地区等も高さを25メートル以下に抑えてもらっているわけです。要綱で守っていただいているというように非常に協力していただいています。新山下についても20メートル以下にしてもらうことをやっているのですが、ここについては今の村上課長の話では、ほかも含めた全体で整理をしていると。そして、それに沿って新山下も考えていくということでよろしいのですか。

○説明者（村上課長） はい、そうです。

○国吉委員 その中で、現在の内容はほぼ踏襲されていくのですか。

○説明者（村上課長） そうです。

○国吉委員 わかりました。その辺のところをちゃんと地元説明のときに言っていかないと、外れるかなというような感じで思われてしまうので、よろしくお願いします。

○説明者（村上課長） わかりました。ありがとうございます。

○西村会長 関連して1つ質問ですけど、京都などで議論になるときに、新山下もそうですけど、山の上からの眺望を守るために自分たちが規制を受けるというのは、他人のところからの眺望を守るために何で自分たちが規制を受けないといけないのかという議論になりかねないのです。そのところはどのようなふうな論理で、そこを全体としてうまく説得するとか合意を持っていこうとしているのでしょうか。

○説明者（村上課長） 確かにそれを強調し過ぎてしまいますと、山手のために何で自分たちが規制を、となってしまうから、やはり新山下の今の地域特性、それから元町・石川町の今の特性というものを、これまでの過去の経緯とかまちづくりの経緯も含めながら説明していきたいと思っております。高さだけを強

調しないように説明をしていきたいと思っております、今のところ一応ご理解はいただいております。
○西村会長 ありがとうございます。この件に関しては、都市景観協議地区の作成などについては、先ほどご説明がありましたように景観審査部会設置要綱によりまして、今後、景観審査部会で審議していただくということになりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○鈴木委員 山手は、お住まいになっている方々にとっても大変良好な住宅地で、あと文教地区ということでも重要ですが、湾岸の高速道路沿いにずっと走っていると山手の丘というのは緑の量感がすごいんです。西洋館というのは大分減ってきているように思ひまして、最近お家なども建てかえられて、緑が減ってきているかなという感じなんです。横浜を象徴するものとして、都心部にあれだけの量感を持った緑の丘というのは、ずっと湾岸道路沿いに続いていますので、見るのが楽しみで山手はいいなと思います。ですから、今いろいろな公有地とか民間所有地の売却とか土地の利用転換が増加しているということで、やはり緑を守るために強く、要綱だけではもう守れないということですので、こういうふうにしていただくと大変いいなと思います。

それで、山手から見たときの新山下の方向というのは、いろいろと利用が変わってきているようだけれども、非常に殺風景なところでして、あの辺もこれから住宅地とか商業地として変わっていくのであれば、やはり早目にまちづくりのルールという何か設けて、湾岸から山手まで、土地の使い方とかは全然違ひますけれども、一つの横浜のエリアとして考えてやっていただくとよりいいのではないかと思います。

これから本当に確かに今までよく守ってこれたと思いますけれども、地域の皆様も高齢化というか世代交代が進むと、なかなかそう山手に愛着がある方ばかりでもなくなったりもしてきますので、今まさに最後のチャンスかなと思っています。よろしくお願ひいたします。

(3) 各部会の開催状況について（報告）

- ・各部会の開催状況について、市から説明を行った。

(4) 都市デザインの広報について（報告）

- ・都市デザインの広報について、市から説明を行った。

(5) 歩行者系案内誘導サインの整備について（報告）

- ・歩行者系案内誘導サインの整備について、市から説明を行った。

(6) 現市庁舎街区等活用事業の進捗について（報告）

- ・現市庁舎街区等活用事業の進捗について、市から説明を行った。

○西村会長

議事は以上です。何か事務局から簡単に確認していただけますか。

○梶山書記 ありがとうございます。本日ご審議いただきました内容の確認をさせていただきたいと思ひます。

審議は議題1、横浜景観ビジョンの改定のみになります。こちらにつきましては、創造的協議の取り扱ひですとか、郊外部への展開、身近な景観づくり、そういうところでどういった表記をしたらいいかというご指摘をいただきましたので、整理していきたいと思っております。

審議会の議事録につきましては、本市の保有する情報の公開に関する条例に基づき、あらかじめ指定した

	<p>者の確認を得た上で、それを閲覧に供することとなっております。本日の議事録は会長の確認をいただき、閲覧に供することとさせていただきます。</p> <p>○西村部会長 さて、次回の日程等について、事務局からご説明ください。</p> <p>○梶山書記 次回の政策検討部会につきましては、また改めて日程調整をさせていただきます。</p> <p>閉 会</p>
資 料	<p>資料１：横浜市景観ビジョンの改定について</p> <p>資料２：山手地区景観推進地区及び都市景観協議地区の策定について</p> <p>資料３：各部会の開催状況について</p> <p>資料４：都市デザインの広報について</p> <p>資料５：歩行者系案内誘導サインの整備について＜非公開＞</p> <p>資料６：現市庁舎街区等活用事業の進捗について＜非公開＞</p> <p>その他：第123回横浜市都市美対策審議会議事録</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の議事録については、部会長が確認する。 ・ 次回開催の日程等は、別途個別に日程調整する。